

Sweet Rain 死神の精度

2008(平成20)年3月23日鑑賞〈梅田ピカデリー〉

★★★



監督・脚本＝笈昌也／原作＝伊坂幸太郎『死神の精度』（文藝春秋刊）／出演＝金城武／小西真奈美／富司純子／光石研／石田卓也／田中哲司／村上淳／奥田恵梨華／吹越満（ワーナー・ブラザーズ映画配給／2008年日本映画／113分）

……国際的大スター金城武が、ハンサムだがちょっと風変わりな死神として登場！ 彼の任務は……？ 彼の下す判定は……？ 3つのエピソードはそれぞれ独立だが、きっとどこかに共通点が……？ そのポイントは、藤木一恵のデビューCD『Sunny Day』に。この映画によって「死ぬこと」についての思考を深め、また「特別じゃないけど、大切なもの」を発見できれば大成功だが、さて……？

あの国際的大スターの一方の顔が……

『三国志』の「赤壁の戦い」をテーマとしたジョン・ウー監督の『レッドクリフ』（08年）の公開が控えている金城武は、今や国際的大スター。その『レッドクリフ』や張藝謀監督の『LOVERS（十面埋伏）』（04年）などの大作における大向こうを唸らせる熱演の一方、金城武は『恋する惑星』（94年）や『ターンレフト ターンライト』（03年）などの瑞々しい青年らしい演技でも注目を集めている。

そんな金城武が「死神」に起用されることになったため、原作者の伊坂幸太郎は映画製作を承諾したとのことだが、金城武演ずる「死神千葉」はちょっとヘンなキャラ……？ 彼の仕事は、指名された人間を7日間観察し、実行（＝死）か見逃す（＝生かす）かを判定すること。工作中、同僚の死神たちとよく出くわしているから、地上には死神がウヨウヨしているわけだ。

彼のキャラの特徴は、第1に他人に無関心、第2にボキャブラリー不足のため（？）会話がトンチンカンなこと。また無二のミュージック好きだが、それも他人に無関心なことの裏返し。もっとも、根は真面目だから、同僚の死神青山（村上淳）の

ように女をたらし込んだりすることもなく、真面目に「君は死ぬことについてどう思う？」と質問している。また彼の、実行か見送りのかの判定基準は、そのターゲットが生きる目的を達成したか否かによるらしい。

映画では冒頭の相棒（上司）である黒い犬との奇妙な会話や、最初のターゲットとなる藤木一恵（小西真奈美）への接触の中、死神千葉のキャラが紹介されていくが、そんなホンワカとした金城武の雰囲気が好きかどうかによって、この映画の評価が決まりそう……？

3つのエピソードに絞ったが……

原作は6つのエピソードからなっているらしいが、映画では千葉が死神の任務として立ち向かうエピソードを3つに絞っている。千葉のターゲットは、第1に27歳のOL藤木一恵、第2に40歳のヤクザ藤田敏之（光石研）、第3に70歳の美容師かずえ（富司純子）。面白いのは、この3つのエピソードに何らかの関連性があるのかどうかだが、ここでその種明かしをしてはダメだから、それはあなた自身の目で……。

死神はターゲットに応じて好青年風になったり、ヤクザ風になったりと見た目は変化するらしいが、死神の寿命や死神が毎年年をとっていくのかどうかについて、映画では何も解説されないから定かではない。また、パンフレットを読めば、なるほどとわかることが多いのだが、映画の中ではあまり正確な情報が提供されていない……？ さあ、そこらあたりをあなたはどう感じとり、どう理解するのだろうか……？

藤木一恵で歌手デビュー

最近私は3月16日に観た『犬と私の10の約束』（08年）の主題歌であるBoAが歌った『be with you.』や、3月20日に観た『泪壺』（07年）の主題歌である沢田知可子が歌った『花心～Lullaby～』を聴き比べた。そして今回も、映画上映前に流されていた藤木一恵のデビュー曲『Sunny Day』を、場合によっては自分のカラオケの持ち歌にしようかと考えながらじっと聴き比べていた。

この藤木一恵は、映画の中で小西真奈美が演ずるOLの名前。電器メーカーの苦情処理係をしている彼女は、執拗なクレマーにつきまともわれて苦しんでいたが、ある日実は彼は著名な音楽プロデューサーであることが判明。そして、彼女の声にホレ込んだ彼の力によって、彼女はプロ歌手デビューを果たすことになったというから面白

い。つまり、第1のターゲットであった一恵について、千葉は珍しく「見送り」の判定を下したわけだ。その藤木一恵のCDデビュー曲が『Sunny Day』だが、このCDが映画における3つのエピソード構成において、大きな役割を果たすことに……。

今ドキこんなヤクザが……？

第2のエピソードは、今ドキ珍しい任侠道に生きる40歳のヤクザ藤田敏之と、彼を一途に慕うチンピラ阿久津伸二（石田卓也）に関するもの。千葉のターゲットは藤田だが、彼を観察しているうちに宿敵栗木（田中哲司）への仇討ちを達成させてやった方がいいのでは、と千葉は考えたようだ。これは、生きる目的を達成したか否かという千葉の基準に照らせば当然の結論だが、無事大願成就を果たした藤田と阿久津は大喜び。もっとも藤田の勝利には、仇役の栗木をターゲットにしていた同僚の死神の活躍もあったようだが、それを藤田が知る由もないのは当然。しかして、そんな藤田に対して千葉が下した判定は……？

第3のエピソードには富司純子が登場！

第3のエピソードは、70歳の美容師かずえに関するもの。長髪姿の千葉が美容室に入ると、すぐに「カットかい？」と声をかけられたが、その瞬間にかずえは千葉が死神だと見破ったようだ。なぜなら、かずえはそれまで何回も「あんたと同じような雰囲気」の死神を見てきたから」とのこと。

この美容室のエピソードで面白いのは、死ぬ前に聞いてくれというかずえの頼みを千葉がやむなく受け入れたこと。その頼みとは、子供たちの髪をタダで散髪するからたくさん集めてくれという奇妙なもの。千葉は何が何だかわからないまま、その頼みを聞いてやったのだが、その願いが実現したかずえは大満足。もっとも、この日多くの子供たちが集まったのはタダで散髪してくれるからではなく、「死神カード」をプレゼントしてくれるという千葉のエサにつられたものだった。しかし、客(?)の中の1人だけはそれを知らずにやってきた男の子がいたから、彼に注目！ さて、そのココロは……？

特別じゃないけど、大切なものは……？

千葉は雨男だから、彼が仕事をする時はいつも雨ばかりという設定。そのため撮影

は大変だったらしいが、千葉にしてみれば青空というものを自分の目で見たことがないのだから、ある意味かわいそう。また、死神は神サマではない（と千葉は主張）が、人間でもないから痛みは感じないし、多分ナイフで刺されても死なないう。そのため、そういう方面に関する人間の感覚の理解度がイマイチなのは仕方ないところ。そういう死神の特性が、天然ボケと相まって千葉独特のキャラを構成することになっている。

そんな「千葉語録」の1つが、「特別じゃないけど、大切なもの」ということ。例えば、人間の命は……？ 例えば家族は……？ そして例えば、ラストシーンで彼がはじめて見た青空は……？ これらはまさに、「特別じゃないけど、大切なもの」ばかり……？

そんな根源的な問いかけをテーマに含んだ興味深い映画だが、第1にまどろっこしい展開（スローな展開？）についての好き嫌い、第2に各エピソードの年代についての説明が不十分なことを含めて、あなたの採点は……？

2008(平成20)年3月24日記

ミニコラム

内閣改造で死神論争は幕引き？

金城武扮する死神は魅力的でも、死神と呼ばれるのは誰だってイヤ。したがって、08年6月18日付朝日新聞夕刊のコラム「素粒子」上で、異例の死刑執行の多さとスピードのため死神と呼ばれた鳩山邦夫元法相がムくれたのは当然だ。「全国犯罪被害者の会」の岡村勲代表幹事も「私たち犯罪被害者・遺族は、死刑囚の死刑執行が1日でも早いことを願っている」と抗議文を提出するなど騒動は拡大したが、その後の展開はどことなくウヤムヤ。

そんな中、8月1日に福田総理が断

行した内閣改造によって法相も保岡興治氏に交代した。裁判官の経験と弁護士資格を持つ保岡氏は死刑制度維持派で、現在注目されている「終身刑」には「人を一生牢獄につなぐ刑は最も残虐な刑になる」と否定的だが、死神論争については言及していない。すると、これによって死神論争は幕引き？ そりゃないだろう！ 朝日新聞たるもの、素粒子たるもの、自分の言葉や表現方法にはトコトン責任を持たなければ……。

2008（平成20）年8月6日